

ジャグパル

JugPal

2005年10月2日 第29号



インタビュー

【彦一団子 さん】

彦一団子・・・何だか以前から気になっていたパフォーマーの一人でした。8月のとある週末に自宅からさほど遠くないデパートでイベント公演があると知り、絶好の機会と出かけていきました。もちろんインタビュー対応も事前をお願いして。



彦一団子さん (ひこさん)

道具、衣裳、音楽そしてちょっとした小道具にいたる細部にまで和風仕立てにしているそのこだわりが気になり、どんな世界が展開されているのか観てみたかったのです。

彦一団子さん(以下ひこさん)の演技は、和風ではありますが傘廻しや曲独楽等のような和芸ではなく、あくまで一般的に普及しているボールやクラブなどの西洋ジャグリングのテクニックをベースにしています。ただし道具が面白く、例えば団子のクラブ、饅頭のディアボロあるいは茶缶のローラボーラなどとてもユニークで、作務衣を着た和菓子屋の店主が品書きをひとつひとつお客様に紹介していくストーリーの中で、それぞれの演技が披露されます。

このように書くと何だか単に奇をてらったかのように感じられるかもしれませんが、例えば面白半分は西洋人に着物を着せたような、そんな違和感や不自然さはなく、ジャグリングの面白さを違った切り口から引き出しています。観たことのある方はお分かりかとは思いますが、あゝジャグリングにはこういう見せ方もあるんだなあ、とひこさんのキャラもあるのですが、単純に楽しむことができます。

ひこさんは、1992年の第一回静岡大道芸フェスティバルを観て大道芸に興味を覚え、1993年に開設された「(静岡)市民クラウン養成講座」に参加してクラウンングを学び、その時ジャグリングも講座の一環として体験することとなります。大学二年生(19才)の時でした。数年後には学生仲間と共に市民クラウンなど一般人を中心とした「大道芸サークル」を立ち上げ、自らジャグリングを練習することとなります。

Q: なぜサークルを立ち上げたのでしょうか。

「大道芸を見るのが好きだったから、大道芸をいろいろな場所で、そしていつでも見られるようにしたかったんです。つまり誰かに大道芸をやって欲しいという気持ちでサークルを立ち上げ、確かにサークルでも路上で大道芸を披露したりしました。でも自らは演技するつもりはなかったけれど、いつの間にか自分もやらされる羽目になって路上に立っていました。ん～、ノリで始めたようなもんですかね。サークルとしては大道芸志向で、もちろんジャグリングの練習はしましたけれど、ジャグリングの技術自体はそれほど重視はしてなかったですね。」



Q: プロとしての活動はここ5年くらいと伺ったので、現在の年齢(31才)から逆算すると、卒業後の数年間に空白時期がありますね。卒業後は就職して会社員になり、しばらくして会社を辞められたそうですが何故でしょう？

「それは大道芸をやりたくて辞めた訳ではないんです。と言うかともと大道芸を見るのは好きだけれど、演(や)りたいとは思っていませんでした。不思議なんですよ。実は人前に立つのは苦手だし、あまり性格的にも合っていないと思うんですよ、こうやって芸をしていること自体が。(笑) 実は僕には夢があって、その夢を叶えるために会社を辞めたんです。

……和菓子職人になりたいんです。

その夢は学生の頃から持っていて、卒業する時も迷いましたが結局は会社勤めを選択しました。でもやはり夢は捨てきれず和菓子職人になりたくて会社を辞めて和菓子作りのための就職活動をしていました。それと同時に大道芸もやっていたんですが、ある時、ここまでやったのならトントンやってみようと本格的に大道芸の世界に踏み出しました。でも和菓子職人の夢は諦めていないので、和菓子の専門学校に通うために今は東京に住んでいます。」

ここ(和菓子)にひこさんのパフォーマンスの原点があったのですね！！

何故和菓子を中心にした和風にこだわるのか、あまりにストレートに演出と夢とがつながり、これ以上“こだわり”について探索する必要が無くなってしまいました。

えっ、でも……ということは将来「彦一団子」の芸は観られなくなっちゃうのでしょうか。これはとてもとても残念なことですけれども、逆にひこさんの作った和菓子を早く食べてみたいという新たな楽しみができました。



Q: ひこさんの演技はとても入りやすく、見終わった後は何だかいいもの見たなぁ～とホンワカ気分になりますが、パフォーマンスで心がけていることは？

「サービス業としての大道芸ですね。店主というシチュエーションで演じているわけですが、親しみのある素材をベースにして、どの世代にも受け入れられるような、そんな楽しい演技作りを目指しています。」

ひこさんの活動の起点となった静岡はご存じの通り大道芸に関しては広く一般に認知・普及していますが、ひこさんによるとやはり大道芸も関東・関西が中心でそれ以外の地方に行くとまだまだ慣れていなくてなかなか人が近づいてこないようです。ひこさんは仰います。

「人の心を動かし、人の心に残るような演技をしないと大道芸は広がりません。そんな演技を生で観る機会が増えれば、見たい人(観客)ばかりではなく、パフォーマーになろうという人をも増やすことにもつながるんだと思います。今は演技をする立場だけれど、いろいろな所で大道芸を見たいと今でもそう思っています。」



実際、ひこさんは東京に来る前は、静岡で大道芸文化の発展に寄与すべくパフォーマー以外の活動も精力的に行い、そういった熱意が静岡では引き継がれているのではないのでしょうか。ひこさんのような思いを持った人が多ければ多いほどパフォーマンスの輪が広がっていくという証ですね。

きっと、ひこさんがお作りになる和菓子ってユニークなものになるんでしょうね。そしてひこさんの創作和菓子を片手に大道芸見物なんていいなあ、今から待ち遠しいです。待ってますよ、ひこさん！

[安部 保範]



お知らせ

【 IJA 2005 チャンピオンシップ 】

ご存じの通り7月18～24日に米国で開催された「IJA 2005 フェスティバル」のチャンピオンシップにて日本人ジャグラーが快挙を成し遂げました。

(シニア部門) 一位: 矢部亮さん

(チーム部門) 二位: 桔梗ブラザーズ

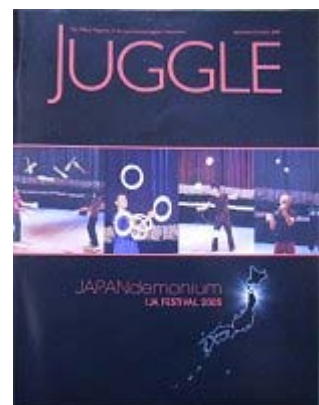
(ジュニア部門)

一位: 進藤一宏さん / 二位: 青木康明さん / 三位: 桔梗崇さん

凄い、凄すぎます。

IJAの機関誌「JUGGLE」では“The Asian Invasion”と題された特集記事まで掲載され、日本人ジャグラーの活躍を多くの写真付きで伝えています。まだまだこの快進撃は止まりそうもないぞ。

[安部 保範]



「JUGGLE」の表紙。
“JAPANdemonium
IJA FESTIVAL 2005”
の文字と共に日本地図が。



ブログ風雑記帳

ポップサーカス(7月1日/さいたま公演)
日本人パフォーマーは少ないけれど、全体的にパフォーマンスのレベルは高く、構成としてもとてもテンポ良く、バリエーションに富んだ演目が続き、客席は大変な盛り上がり。現状国内のサーカス団の中では一番楽しめると思う。



にしやと ふれあい夏祭り(7月17日/横浜市栄区)
地元のお祭りでパフォーマンスを披露。八王子マジックグループの方々もマジックを披露。いい加減な私とは違って、歴史あるサークルだけのことはあって皆さん普段からしっかりと練習されているようで、演じることに慣れていて、かつルーティンの組み方はさすが。

ヌーヴォー・シルク・カフェ(7月22日/渋谷アップリンク・ファクトリー)
ヌーヴォー・シルクの普及活動に東奔西走の二人組「ル・クプル・ノワール」による現代サーカスのフィルム上映とトークショー。お二人の活動に興味を持ちインタビューしようと決意。インタビュー記事はジャグパル30号でどうぞ。

サーカス村学校卒業公演(7月23日/群馬県サーカス学校)
卒業生を送り出すということは、サーカス学校も創立4年となったわけだ。早いものだ。サーカス学校らしくシフォンや足芸などサーカスならではの演目があり、また何より生徒さんたちの希望に溢れた華のある公演に胸がジーン。ただし技術的な荒さが散見され、なおさらながらサーカス芸の習得の大変さを感じ取る。改めて生徒さんたちにエールを送りたい。夢に向かって頑張れ！！



ポリショイサーカス(7月30日/横浜文化体育館)
冬の後楽園と夏の横浜文化体育館と、ポリショイは毎年2回観てますかね、わたしは好きですよ、ポリショイ。特にジャグリングは毎回見逃せない。今回はドラムセットを前に複数のボールをタムタム等に叩きつけてリズムを刻み、BGMのメロディラインに綺麗にのせていた。かなり難しいリズムをも刻み技術的にも娯楽性にも富んで満足の一品。加えてサーカスアーティストだけあって身体能力も高くアクロバット芸のプログラムにも出演。

汐留 アート大道芸(7月末~8月末/日本テレビ汐留)
毎年恒例の行事だが、超一流どころが揃っていましたねえ。それもそのはず、パリで毎年開催される「シルク・ドゥ・ドゥマン」(明日のサーカス)参加のトップアーティストが中心ですから。会場は会社から近いのでまめに通っていたが、どれもこれも創造性に富んだクオリティの高い演技が印象的。

(楽しんだユニット)Le Tennis / Cirque aux Images / Duo Celine / Les Acrostiches / Get The Shoe / Duon Vertical Tango / Duo Voltart

元大橋 ふれあい祭(8月6日/横浜市栄区)
地元のお祭りでバルーン講習の依頼があり、チラシをもらった“足長けんちゃんがやって来る”みたいなことが書いてありビックリ！あらケンちゃん(石川健三郎さん)のことじゃん。当日はマネージャー役の野毛大道芸スタッフのYさんも一緒に3人で楽しくお仕事、お仕事。ケンちゃんは足長パフォーマンスとジャグリングショーと二回公演で大活躍。久々にケンちゃんのパフォーマンスも観られて大満足の日。



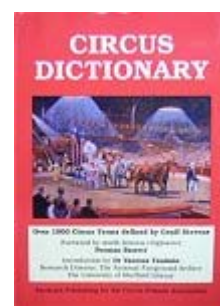
ネオポリス やまゆり夏祭り(8月7日/横浜市栄区)
地元の夏祭りでバルーンを作っては売り、作っては売りの3時間。久々にバルーンをひねりまくり、腱鞘炎なりかけモード。

シルク・ド・汐留(8月12日/日本テレビ汐留)
汐留アート大道芸の選抜メンバーによる屋内でのサーカスショー。こりゃ良かった！入場料も500円と超格安だし。彼らのパフォーマンスは路上で見るより照明効果など舞台演出が加わった環境で観るほうが断然良い。
(出演)Cerka / Les Acrostiches / Duo Bondarenko / Get The Shoe / Romeo and Juliet

オーロラモール大道芸(8月14日/東戸塚西武)
彦一団子さんのパフォーマンスを食い入るように拝見。その後中華レストランでインタビュー、と言ってもいつもの事ながらとりとめのない話に楽しい時間を過ごす。

体風の芽 Vol. 5(8月20日/スタジオP.A.C)
ジャグリング、アクロバット、コンテンポラリーサーカス、マイム、ダンスあるいは説明の難しいパフォーマンスなどが続々登場し、飽きがこない楽しい公演。企画構成は金井圭介さんとくるくるシルクさん。『日本でもフランスで観たような芸人達のフェスティバルを開けないものだろうか』のひと言で始まったこの「体風の芽」ももう5回目。年々参加パフォーマーの分野も広がって倍々に楽しくなっていくようだ。仏国立サーカス学校CNAC卒業の金井圭介さんと現在研修中のユッキーさんは、その表現力においては国内のジャグラーより抜き出でていたように思える。

書籍 Circus Dictionary(8月21日)
著者: Geoff Stevens
発行: Aardvark Publishing for the Circus Friends Association
価格: 21.00英ポンド
イギリスにあるサーカスファンクラブCFA(the Circus Friends Association)から購入した。1,000以上の業界用語(スラング)含むサーカス用語が掲載されている辞書。まあ読み物ではないのでこのまま本棚へ。



国際サーカス村協会の例会(8月30日/千駄ヶ谷区民館)
会員のOさんによるフランスで観たフェスティバルの報告会。パリでのCNACの卒業公演“KILO”の観劇を皮切りに、シャロン、アヴィニオンと駆け足でたくさんのプログラムを観てきたようで収穫大いにありとのこと。行ってみたい…でも広大な会場を短時間で効率よく回ってたくさんのプログラムを観るのは大変そうだ。

書籍「インタビュー術！」(9月1日)

著者:永江朗

発行:講談社現代新書

価格:740円(本体)

ジャグパルでパフォーマーの方々とお会いして、話の内容をインタビューという形で載せているが、果たしてインタビュイー(インタビューされる人)の素晴らしさを読者に伝えることができているのかいつも不安だ。もっともっと上手に表現豊かに彼らの姿を伝えたい。インタビューの取材・編集のやり方などのテクニックが学べるのではないかと思い読んでみた。何か学べたのか、いや分かってはいたけれどそんなことは安直に学べやしない。でも前々から感じていたことをこの本で確認できた。それは、「インタビュー記事は、インタビュアー(インタビューする人)の能力以上のものにはならない。」ということ。当たり前のことがプロのインタビュアーの言葉として確認できた。自分の不足分を補いつつ、あまり背伸びせずにこれからもパフォーマーの方々とお会いしていきたい。相手に興味を持つことがインタビュアーとして一番大切なことだと思う。



林家正蔵 襲名披露(9月17日/鎌倉芸術劇場)

林家いっ平「声に出して読みたくない天国からの手紙」

春風亭小朝「親子酒」

三遊亭圓歌「中沢家の人々」

口上

翁家勝丸「太神楽」

林家正蔵「子別れ」

落語は面白い！ひょっとすると一番好きな芸能は落語かもしれないと思う今日この頃。いっ平はまあ脇において、小朝と圓歌の噺に場内大爆笑の連続、助けて、そんなに笑わせないでくれえ、腹が痛いよお…。場内が爆発的に盛り上がったところでちょいと頭を冷やす意味で中入り、口上で正蔵への期待感が増すばかり。トリを待つはやる心を抑えつつ、色物でいったん観客の思いはそらされ、視覚的な演技で高座が賑わい脳を活性化。さぁいよいよ正蔵だ、身体も心もトリの噺を聴くために準備万端！寄席の構成というのは本当に良くできているものだと感心してしまう。ちなみに翁家勝丸(太神楽)にはもう少し頑張ってもらいたい。ちょいドロップしすぎ。

書籍「ブルー・オーシャン戦略 ~ 競争のない世界を創造する」(9月22日)

著者:W・チャン・キム、レネ・モボルニュ

翻訳:有賀裕子

出版社:ランダムハウス講談社

価格:1,995円(税込)

本屋で立ち読み。この経営書では、競合他社と価格や機能で血みどろの消耗戦を強いられる既存市場を「レッド・オーシャン(赤い海)」、競争自体がない未開拓の市場を「ブルー・オーシャン(青い海)」と呼んでいる。過去120年間30以上の業界で生み出されてきたブルー・オーシャンの調査結果をもとに、いかにしてこのブルー・オーシャン市場を創造していくのか、その具体的な分析ツールを提示していることが本書の特長。で、面白いのは過去の実例として、シルク・ドゥ・ソレイユが入っていること。ページをめくるとしょっぱなにブルー・オーシャンという概念を説明するための例としてシルク・ドゥ・ソレイユが取り上げられている。ここでは旧来のサーカスとして“リングリング・ブラザーズ・アンド・バーナム・アンド・ベイリー・サーカス(長げえ~)”との比較から、いかにしてシルク・ドゥ・ソレイユがビジネスとして成功したかを述べている。本書の主題とは違うが、サーカス自体をはなから産業としてしかみていないことに疑問。



小菅ヶ谷町内会 まつり(9月25日/横浜市栄区)

地元のお祭りでパフォーマンス披露。また八王子マジックグループの方々と一緒になり、お話することもでき楽しいひとときを過ごす。

大高規三子(9月28日/BankART Studio NYK敷地内)

フランスで活動中のコンテンポラリーダンサーで、8年ぶりの日本公演とのこと。フランスでサーカスを学び今回もブランコというオブジェと身体を踊らせるパフォーマンスで独自の空間を創り出す。ランドマークとか観覧車が見える海沿いの倉庫脇の空き地にブランコが下がっていて、サーカスのような曲芸ではなく、しっとりとした演技。かつダンスが野外空間の広さに埋もれさせないようにブランコを上手く使っていたので、ダンスに関しては門外漢の私でも飽きない。しかも身体がよく鍛えられているのでブランコ演技はとても上手い。観客としてその凄さを分かる必要はないけれど、でも凄いなあ、綺麗ななあと感じつつ、野外で夜風にあたりながらリラックスしたひとときを楽しんだ。

ビュラン・サーカス・エトカン(9月30日/横浜トリエンナーレ)

え〜と、Webサイトから引用させていただくと、『ダン・デムニックと美術家ダニエル・ビュラン他2名で構成するアートサーカスを日本で初公開。インスタレーション的な空間で「ヌーボーシルク(新しいサーカス)」と呼ばれるアート性の強い出し物を繰り広げる。』ということで、確かに野外に置かれた舞台は芸術的展示物と言えるのかもしれないが、これが強すぎる。人間が織りなすサーカス芸自体がアートとも言えるのに、その良さをもっと引き出してもらいたかった。でなければ何故あえてサーカスという身体表現をコラボの相手として選んだのか私には分からん。そんな中でボールのマニピレーションは今まで観たことのないほど素晴らしいものだった。

[安部 保範]



イベント情報

さあ、イベントが目白押しの秋ですが、どこで何を見るのか。事前の情報収集が不可欠ですね。以下は、すずちゃんの大道芸情報サイト「Daidougei Information <<http://wanwan.ciao.jp/xoops/>>」から引用させて頂きましたが、このサイトをマメにチェックして目一杯楽しみましょう。

東京・町田大道芸/10月8日(土)~9日(日)

<http://www.westeast.co.jp/daidougei/>

OSAKAエンタテイメントフェスティバル/10月9日(日),10日(祝)

<http://www.entafes.com/>

大須大道町人祭/10月15日(土),16日(日)

<http://www.ohsu-gei.net/town/maturi.html>

江ノ島秋まつり/10月15日(土), 16日(日)

<http://www.cityfujisawa.ne.jp/fkanko/e-ddr.htm>

豊橋大道芸/10月15日(土), 16日(日)

ヘブンアーティストTOKYO(10月14日(金)~16日(日))

<http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/heavenartist/>

東京・三茶de大道芸/10月23日(土)~24日(日)

<http://www.sangen-jaya.com/nakamise/event/arttown.html>

大道芸ワールドカップin静岡/11月1日(火)~6日(日)

<http://www.daidougei.com/>

しまね大道芸大会2005/11月11日(金)~13日(日)

東京・晴海トリトン クラウンミーティング/11月19日(土)~20日(日)

<http://www.triton-shop.com/>



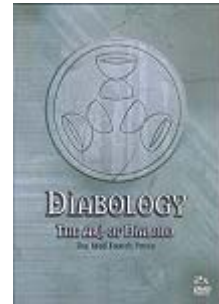
DVDレビュー

【DIABOLOGY】

「DIABOLOGY」/ 2枚組 / 約140分 / 3,675円(税込み)ナラン八にて

「やってくれたなあ、Mr. Babache!」「さすが! Mr. Babache!」という脱帽もののDVDです。

練習では習得し得ない領域の技を惜しげもなく見せるディアボロのビデオ。ディアボロの本場フランスのマッド・フレンチ・ボッシー制作。



最初に見たとき、正直「なんじゃこりゃ?」と思いました。と言うのも僕が知っているディアボロのレベルを遙かに超えていたからです。ディアボロの無限の可能性を感じさせられます。しかし、彼らのようなパフォーマンスは「練習すれば出来る」と言う領域を超えていて、「天から授かった才能」の持ち主が質の良い練習を積み重ねて初めて習得できる、と言う領域だと思う。って、言うか僕がいくら練習しても辿り着けない領域であるのは間違いない。

2枚組になっていて、1枚目は「エデュケーショナル」となっているけど、それ程親切丁寧には教えてくれる内容ではありません。ただ、面白いのは、ディアボロのサイトスワップなどがあり、新鮮に感じた。2枚目はフリースタイルと言うように、彼らが様々な技をBGMにのせて見せてくれます。それが時には湖畔であったり、滝であったり、町中、地下鉄の中やライトアップされたエッフェル塔の前とロケ地も様々でその映像を見るだけでも楽しめます。それにしてもよくこれだけのメンバーが集まったものだとつくづく感心します。

ディアボロの限界を感じている人、そうでない人にもお勧めのビデオです。買おうかどうか迷っている人は、<http://www.artofdiabolo.com> を覗いてみて下さい。こちらのサイトもディアボロに関する情報が山のようにあります。

【プロフェッショナルジャグラー 石川 健三郎】

編集後記

今年2005年は私の生誕50周年であり、「ロック生誕50周年」であることを先号お知らせしましたが、50周年シリーズ第2段。「かしまし娘」が結成50周年なんですよって!めでたい。うちら陽気な~で始まる漫才あり、三味線あり、歌ありの正司歌江・照枝・花江の姉妹トリオを、小学生の頃テレビ朝日の番組「大正テレビ寄席」で見て面白い!には面白い!けれど、文字通りの「かしましさ」とパワフルさに圧倒されて、おばさんには気をつけようと幼心に思ったものでした。(でも40年前のことだから彼女たちも“おばさん”と言うほどの年齢ではなかったはず)少子化の今、姉妹トリオなんてもう出てこないだろうなあ。

「大正テレビ寄席」は本当にバラエティに富んだ演芸の数々を茶の間に提供し、多くの人気者を輩出しました。思えばあれが演芸に興味を持ち始めたきっかけだったかもしれないし、面白い芸を見た時のワクワク感はその時と変わらないような気がする。

ジャグパルは私という一個人が野次馬根性丸出しで、単なる趣味として発行して、特定の企業、団体あるいはパフォーマー個人に関係しているものではありません。

編集発行人: 安部保範(神奈川県横浜市栄区 在住)

Webサイト JugPal<<http://www.chansuke.net/jugpal/>>

見世物広場<<http://www.chansuke.net/>>

E-mail: chansuke@chansuke.net